

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>



2015会員名簿表紙作品

おらんくの池

絵本作家

西村 繁男 (40回生)



「おらんくの池」とは、もちろんよきこい節の一節です。「いうたちいかんちや おらんくの池にや 潮吹く魚が 泳ぎよる」とはなんと豪気で、おらんかで、ユーモアに富んだ世界ではないでしょうか。こういう世界に惹かれます。

土佐高卒業を機に上京して50年、絵本を作り始めて40年が経ちます。絵本を作る時、大人とか子どもとかあまり意識しないのですが、自分の中にある子ども時代に感じたこと経験したことが大きな部分を占めるのだと思っています。その子供時代とは、戦後物のまだ豊かではなかった時から高度成長に向かう時にあたり、その時代を土佐の風土の中で過ごした訳です。

鏡川の傍に家が在ったので川で遊び、父が嶺北の出だったので夏休みは山で遊びました。母に付いて近所の火曜市によく行きました。小学校は第四だったので坂本龍馬の生地が近く、講堂には龍馬の肖像画が掛かっていました。土佐中に入り「よく学び、よく遊べ」はなんという言葉だと思いました。そして「自由は土佐の山間より出ず」の自由民権運動が土佐の地から発信されたことを誇らしく思いました。そんな子供時代でした。



2015 ホームカミングデー

日時／平成27年 8 月15日(土) 12:00～

講演会

筆山ホール講演会

2020外国人にも誇りたい高知の魅力
～脱藩組・いち広告マンの視点から～

安田 雅彦 氏 (52回生)



天造 豊彦 (52回生)

安田君が披露してくれた「外国人、東京人が喜ぶ高知の魅力BEST10映像」。初めて見て知る事実・現場・現実が一杯で驚かされました。(特に蟹ミキサー、15Mのビッグウェイブ)。彼は自身のキャリアを積み重ねていく中で、高知愛が大いに芽生え「高知家」プロモーション大成功にも導いてくれた貢献者でもあります。私も同じ「脱藩組」でしたが、ここまで広く深く郷土を知り尽くそう、貢献しようという関わりはできなかった。地元の我々の「普通」が、これからは都会人・外国人には「住んでみたい場所」に成り得る。そうした魅力がちゃんと一杯あることを誇らしく思う。そしてその想いに応えて活きたいと考えます。後は地元のみinnで実行あるのみやねえ。

高知に戻るだけが郷土貢献ではありません

ん。安田君のような脱藩組からの愛視点と次への提言が必要です。来年度からの企画も楽しみにしちよります。ありがとう！…懇親会后、ひろめ市場に行きましたが、同席の若者たちと即座に意気投合、一人一人に得意の直筆書道サインプレゼントの大宴会。気さくでオープン、前向き・行動的な姿はまっこと真のいごっそう！ぜよ！



熱心に耳を傾ける同窓生ら

特別授業



岡松先生と同級生

数えることから始めよう

岡松 宏明 土佐中・高等学校教頭(51回生)

出席者の大半にとっては高校卒業以来の数学の授業です。遠い記憶を掘り起こすがゆえの懐かしさ(数学らあて何年ぶり?)や不安(理解できるだろうか……)を抱きつつ集まると、まず示されたのは、円周上に任意に打たれた赤と青の点。「両端に異なる色の点を持つ弧の数は2の倍数になることを証明せよ。」次に、規則的に点を並べて描かれた六角形。「点の数を数える方法を複数考えよ。」……文系の私には、どちらも結構手強い相手でした。

解説にICT機器を使うところには隔世の感がありましたが、岡松先生の飄々としたお姿や口振りは相変わらずでした。——答えに至る過程は1つではなく、もの見方も様々である。ただし、そこには必ず論理性(根拠)が求められる——どこか人生にも通ずる、今回の特別授業。頭の、普段使わない部分が刺激され、「数学愛」も少しばかり甦った(あるいは芽生えた)かもしれません。



杉本 佳代子 (65回生)

65回生実行委員は『Road to 母校』と、私たちの学年の担任で、今年度より母校の教頭先生になられた岡松宏明先生(51回生)の特別授業を担当させていただきました。

講演会

イスラムの世界観

先川 信一郎 氏（高知工科大学特任教授（45回生））



柳原 幹雄（45回生）

昨今「イスラム国」の残虐さが報じられるけれどそもそもイスラム教についてよくわからんと思っていたので、先川君の講演は興味深かった。立って聴講する方もいる定員80人の生徒会室で、先川君は扇子を手にしながら、自身が世界各地で撮った映像でイスラムについて説明してくれた。

イスラム教は7世紀に始まった宗教であり、唯一絶対の神（アッラーとは神の意味）を信仰し、信仰を貫いたものは死後イスラムの天国において永世を得ることが出来るとのことだが、飲酒は死後地獄に行くそうで、僕は仏教徒でよかったと思った次第。



「イスラム国」はイスラム教における異端者のように思える。欧州などの排他的極右集団に似ている。彼らはイスラム教スンニ派の一派で、7世紀にインド北西部よりイベリア半島にあったイスラム王朝（ウマイヤ朝）の復興を目指している、資金源は制圧しているイラク西部およびシリア東部の原油である。イスラム教徒ではあるが、その存在はほとんどのイスラム教徒にとっては許しがたいもののようなのだ。

演奏会

ライブ～高知で活躍する軽音楽OBバンド



筒井啓文



Bed Sounds



デン☆レミー



島巻 淳（55回生）

「おい、なにやるで？」という55回生のやり取りから始まったライブ企画。幹事の特権？を活用して、結局自分達でライブをやるとういうことに。折角のホームカミングデーなので同級生だけはまずかろうと思ひ、若手の筒井啓文君（82回）をトリに迎えて前をBed Sounds（55回島巻）、デン☆レミー（55回岡本、杉村、佐藤、79回仙頭）という布陣で演奏しました。

当日のチラシ配布やマイク放送のおかげで、リハから老若男女沢山の同窓生の方にお越しいただきました。会場が食堂だったので、飲食のBGM代わりに聞いていただけたかと思ひます。今回こんな機会を与えてくれた「5の会」、そしてご来場いただいた皆様、本当に有難うございました。

母校でのライブはサイコーと出演者一同感激して、10年後もライブ企画を虎視眈々と狙ひます。（願望）

WORKSHOP

「ひとりひとりの花をつくろう」

都築 房子 氏（42回生）



～みんなの心に咲いたかな？～
上田 容子（55回生）

「美術室？どこでえ？」母校だが、新しい校舎ゆえに迷いながらたどり着いた会場。立地条件の悪さにもかかわらず、集まったみんなのパワーはすごかったです。与えられた同じ材料で、ひとりひとり違う個性あふれる作品が完成しました。

私たちを指導してくれた時（四十年前も前！）からずっと、第一線でご活躍されている先生の創作意欲の源をお聞きしたかったのですが、50分の時間では到底無理でした。しかし、ワークショップを通して感じた先生の静かなる情熱は、確かにみんなに伝わったと思ひます。材料の準備などいろいろお手数おかけして、本当にありがとうございます。今後も館長をされている香美市美術館でのご活躍を陰ながら応援させていただきます。

「5の会」でホームカミングデーの企画にかかわったことで、同じ55回生の横の繋がりでなくて縦の繋がりができて、世界が広がったような気がします。来年もまた、楽しい企画が満載のHCD（ホームカミングデー）に期待しています！！

Road to 母校 (TOSA RIDERs Coffee Break Meeting)



Road to 母校を終えて
～自慢の愛車(オートバイ)
で登校しよう～

島内 朝康 (65回生)



「すべての道はローマに通ず」という言葉は、「物事はどのような経路を通ったところで、必ず一つの真理にたどり着く」という意味のようですが、今回これにあやかって『Road to 母校』という企画を提案しました。今どんな人生を送っていてもいつか

は必ず母校に至る、今日はいつもの交差点を母校の方へ曲がってみないかい、というお誘いです。

そして当日。雨には濡れる、止まれば倒れる、暑さ寒さは受け流す、ながらスマホ無理、異性にモテナイ(これは人による)などなど、数えきれない魅力を持つ、危険で素敵なmotorcycleで集ってくださった方々は12名!! アイスコーヒーと特製ステッカー(合わせて200円)を強制的に購入させられるという“暴力バー”まがいの接待に、「金とんのかよ……」という呟きもこぼれたようでしたが、そこは同じ価値観を持つ者同士、瞬く間に仲良くなり、土佐校らしいソフィスティケートされた話題で盛り上がりしました。

この特製ステッカーは、ちょっとした魔力を持っています。旅先や街中で見かけると「あっ」と思い、次の瞬間ニヤリ、そして少し幸せな気持ちになれることでしょう。また、ステッカー中央部分には卒業年度等を記入できる欄がありますが、それを見れば、先輩にうっかりタメ口をたたき、後輩と思って敬語で話していたら実は逆でお互い気まずい……といった、高校卒業後に起こりがちな「見た目判断」によるトラブルを未然に防ぐことができます。そして、新しい素敵な出会いの1ページが増えることでしょう。このステッカーはまさしく「土佐校卒限定の夢のパスポート」だと自負しています。

最後に
一つお詫
び申しあ
げたいの
は、大き



なハーレーでご参加くださったにも関わらず、私どもの手違いにより、会場を目前にして参加を断念なされた先輩がいらっしゃったことです。誠に申し訳ありませんでした。これに懲りず、今後も同様の企画があれば、愛車との参加をお願いいたします。

本企画のために快く駐車場を開放してくださった母校の懐の大きさ、教職員の皆様、豪華景品などを差し入れてくださったYSP高知の掛水義男様(60回生)、本企画成立のためにご支援くださった同窓会本部の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

～ 表彰 ～



- 最年長賞 ヴィンテージ賞(古いバイク)
46回 富永 邦昭さん
- 遠来賞(神戸から参加)
76回 岡田 晋典さん
- 走行距離賞(バイクのメーターが一番長い距離を示している)
57回 堅田 壮司さん
- バイク友達賞(仲良く同窓生でバイクを楽しんでいる)
53回 村田 尚亮さんと 53回 大利 正宏さん
- 美麗単車賞(年式の割にきれいなバイク)
83回 林 浩希さん
- Youngest賞
88回 鎌倉 礼学さんと 88回 数田 明優さん



自慢のバイクで勢ぞろい。ハイ、ポーズ!!

免震構造見学

東洋ゴムの偽装が発覚し、土佐校新校舎も58のうち8つのゴムが基準に達していないことが判ったというタイミングでの企画。約30名の同窓生がヘルメットをかぶり、免震構造を見学し、案内役の三浦浩二前教頭(45回生)の説明に熱心に耳を傾けました。



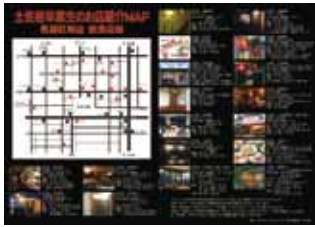
校内見学

案内役は小村彰教頭先生(49回生)と西尾小和先生(66回生)。親子の参加が多く見られました。未来の土佐中生が沢山訪れ、新校舎を興味深く見学しました。



(5)

●土佐校卒業生のお店MAP



5の会 (65回生作成)



全力土佐校体操、懇親会の定番に!



田村 欣久 先生
(75回生)

今年10周年を迎えた大学1、2年生で組織するチーム陽のよさこいダンスで幕明けした懇親会。「3の会」から始まった懇親会での「土佐校体操」もすっかり定着しました。今年も昨年に引き続き、75回生の田村欣久先生を中心に「5の会」最若手の85回生が掛け声高らかに、ラジオ体操とはちょっと違う伝統ある土佐校体操＝全校体操を披露。会場を埋め尽くす同窓生もそれに呼応し、会場はひとつに。圧巻!「こりゃ、たまらん、酔いか回るぜよ! (ちや!)」



2015ホームカミングデー実行委員会「5の会」



土佐校の絆を実感

今井 悠水 (75回生)

今回初めて、ホームカミングデーの実行委員を務めさせていただき、75回生としては、受付や案内係、また力仕事を担当しました。準備段階の会議から、回を重ねるごとに先輩から後輩まで団結力が増していき、本番ではますます円滑に進めることができたと思います。

夕方からの懇親会では200名を超える卒業生が参加しての大宴会。締めには、75回生である田村欣久先生による「全力土佐校体操」で、会場全体が一つになりました。

最後に、この度「5の会」に参加させていただきまして、改めて土佐校の強い絆を実感することができ、また卒業してから土佐校の為にお手伝いできることを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



笑顔溢れる同窓会

池上 奈津美 (85回生)

今回ホームカミングデーに初めて参加させていただきましたが、土佐校の繋がりが強いことを改めて実感しました。私自身、「5の会」主催ということで打ち合わせにも何度か参加させていただきました。そこには実行委員の方々の「どうすればホームカミングデーを盛り上げられるのだろうか。」という母校に対しての熱い想いがありました。ホームカミングデー当日はさまざまな企画が行われ、笑顔が溢れる同窓会になっていました。このように年代問わず、楽しめる機会がある母校を大変誇らしく思うとともに、今後は若い年代の方々にも大勢参加してもらいたいと感じました。このような素敵な機会が、これからもずっと続いていくことを願っています。



新たな試み二つ、同窓生の活躍も再確認

実行委員長 寺村 善博 (45回生)

年代の異なる人との仕事を離れた交流は楽しいものですね。10歳ずつ年が違っていると、いろいろな考え方、生き方に会えます。

2015年のホームカミングデー実行委員会が「5の会」です。初めて参加させていただき、8月の本番を滞りなく遂行できるよう、2カ月に1度の実行委員会で概略を固め、各年代の委員にご苦労をいただきました。

新たな発想で65回生から提案された「Road to 母校」は、バイクで母校へ来てみようという呼び掛けでした。9人が、遠くは神戸から訪れてくれました。同窓生はいろいろな分野で活躍しています。筆山ホール講演会やイスラム講演などで再確認できました。それぞれの報告があるので、詳細は省きます。

なお、今回は、これも新たなアプローチとして、同窓生が営む帯屋町周辺の飲みに行ける店を65回生が調べ、まとめてくれました。チラシを手に、懇親会後の2次会、3次会に当日利用した人も多かったはず。「6の会」以降も情報を更新して続けられたいいな、と思ったことです。ありがとうございました。

来年のホームカミングデー 2016年8月13日(土) 開催予定



土佐中・高での40年を振り返って

前教師 三浦浩二（45回生）

私は昭和50年に社会科教員として母校に奉職しました。後から聞かされた話では、当時定年制の導入でもめていた中、曾我部校長先生が新教員採用済みの既成事実を急ぎ必要としたという事情があったそうです。

登山部顧問時代の恐怖の思い出

最初の10年が生徒と直接触れ合う機会が最も多かった時期です。担任として54・57・60回の各卒業生を送り出し、ただ「若いから」という理由で登山部の顧問を任せられ、筆山での練習に部員と汗を流しました。練習後にツメミツで飲むジュースの美味しかったこと！ 県体・インターハイ登山への出場や県高体連のネパール・ヒマラヤ調査隊に参加した楽しい思い出の一方で、九死に一生を得るような経験もしました。ある年の夏合宿、列島に向かっている台風には、「コースも外れているし、来る前には山を下りられる」という私の甘い判断で剣山・三嶺の縦走を始めたところ、急に進路を変え速度を上げた台風に追いつかれ、豪雨と激しい落雷の中、激流と化した沢に唯一かかる丸木橋を命がけで渡って何とか全員無事に山小屋に辿り着き下山できたことでした。

恐怖に耐えて冷静に行動してくれた部員に今でも感謝です。



昭51年 剣山山頂にて(登山部部員と共に)

図書館活動

次の10年は学校図書館活動への取り組みが記憶に残ります。司書教諭の資格を取り、パソコンを導入しての図書館業務の機械化に着手したり、国語科の先生方をお願いして『読書感想文集』の発行を始めていただきました。

忘れられない落雷事故

担任の最後は74回生ですが、この

時の忘れられない出来事の二つが平成8年8月に起きたサッカー部北村君の落雷事故です。森田校長先生をお願いして「北村光寿君を支援する会」を組織し、広く県民の皆様へ支援の呼びかけをすると同時に、学校・保護者を挙げた取組みを行いました。が、目標とした北村君の完全回復はならず、たくさんの残念を残す結果となりました。マスコミの報道姿勢の問題を痛切に考えさせられたものこの時です。続く『80周年記念誌』編集への参加と進路指導部担当の経験は、元来「ひきこもり」体質の私を外に押し出してくれ、池上校長先生からお声掛けをいただいた教頭職をお受けしました。

新校舎建築の取組み

平成16年、早々に取組むことになったのが新校舎建築ですが、これは長浜グラウンドの造成、新グラの整備、現校舎のアスベスト問題への対応を含む大きな事業で、付随して色々な問題が生じた上に例の未履修問題なども絡まって、本当に大変でした。これら乗り越えることができたのは、校長先生のリーダーシップと教職員の間、積極的協力という良き校内態勢ができたことと、同窓会や振興会が一丸となつてたくさんのご協力をいただけたからです。特に資金面では、地元金融機関の協力や目標額を超える募金の達成に加えて県から多額の建築補助金をいただくことができました。県庁でこの決定を聴いて帰ってこられた校長先生と手を取り合つて喜んだ

ことが思い出されます。この補助金の実現には知事はもちろん、私と同期の当時の教育長のご尽力が大きかったと伺っていますが、本当に様々なところで同窓生との絆に支えられ助けられて実現できた事業でした。

報恩感謝

ある意味で「デモシカ教師」の私は結局優秀な教員にはなれませんでした。が、曾我部・松浦・森田・池上・山本の歴代校長先生にお仕えして40年も教員を続けることができました。先輩・同僚の先生方や保護者の皆様の支えはもうろんでいますが、「土佐中・高生」という素晴らしい生徒たちがいたからこそとあらためて感謝しています。有難うございました。



初めて担任となった54回生と高知城にて

第9回先輩後輩交流会

吉良 祝人 (73 回生)



多くの同窓生のご協力を賜り、無事に平成27年度先輩・後輩交流会を開催することができました。

平成20年度の第1回目は9名(平成20年度は4月と7月に開催したので、4月はカウントしていない。4月は4名)という少人数からスタート

ト致しましたが、70回生・北川力先輩のおかげで、今回は102名とここ3年間は、安定して100名を超えて100名を超える参加者を頂いております。



写真の撮影、49回生・橋本雅彦さん先導のもと、エール斉唱と校歌斉唱、同窓会副幹事長で、本交流会の世話役である62回生・矢野公士先輩より閉会の挨拶と進行致しました。
今回で9回目となりましたが、まだまだ手探りの状態で、日程と会場に關しても実行委員会でご話し合いが続いております。
これからも、多くの同窓生が氣樂に出会い、交わる場を企画して参りますので、何卒今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

講師・宮地貴嗣氏(61回生) ▶

今回は初めての試みで、先輩・後輩交流会に先立ち、講師に61回生・アイゴッソ高知代表・宮地貴嗣先輩をお招きし、「アイゴッソ高知の誕生から現在、そして今後について。」と題しまして、先輩・後輩交流会特別講演を執り行いました。アイゴッソ高知のブースも設けたり、評判は良かったと感じましたので、来年度も特別講演を予定しております。



運営委員のメンバー



第1回土佐高コン実施報告

くきつと花は咲く!!

実行委員長

中岡 竜太郎

(82 回生)



会場である「利他食堂」にはロフトと呼ばれるいわゆる中二階部分が存在し、そこに立つと会場全体が俯瞰できるようにになっている。ビールを片手に何気なくそこに立ち会場を見下ろしてみると、そこは華やきに満ち、笑顔と談笑が織りなす煌びやかな空間が広がっていた。不安がなかった。

わけではない。いや正直に言えば、むしろ不安しかなかった。当日会場が白けた空気が覆われてしまつたらどうしよう、と。しかし、その不安は杞憂に終わったのだ。準備していた余興も用なしだ。成り行きで全てを恋愛の神様というものに委ねようと決めた瞬間でもあった。



卒業生限定で未婚の男女が交流できる場を創造したい、そうしたいおせっかい心を形にすべく企画し、最終的には総勢約50名が集まつた今回のパーティーだが、実施までの道のりは決して平坦なものではなかった。当初の懸念通り、男性の参加者集めに苦慮したのだ。開催日まで2週間となった時点で男女比は実に8対20だった。このまま開催した日には、もう二度と高知で日の当たるところは歩けない! そんな焦燥にかられ、次第に胃の痛みは増していく

日々を過ごしながら、なんとか開催に漕ぎ着けた。ご参加いただいた皆様には感謝感謝である。

さて気になるのは今回のパーティーで、カップリングは成立したのか!? という点だが、実は実行委員会ではカップル成立の事例をまだ1件も把握していない。今回は「婚活パーティー」に付き物である「告白タイム」というものをあえて設けなかったのだからそれも無理もない。だって皆土佐の卒業生同士なんだかそんなの氣恥ずかしいよね、って勝手に配慮したわけだが...。あつた方がよかったのかな?? かしこく今回のパーティーがさう

かけとなり、こつそりと、そしてひっそりと物陰に隠れながら慎重しやかに愛を育んでいるカップルがいるに違いない! と自分に言い聞かせている。種は撒いた。あとはどこかで花開くのを待つばかりだ。



学校近況ご報告



学校長

山本 芳夫

(40回生)

同窓生の皆様におかれては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は母校に対し格別のご厚情とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

一、「より高いレベルでの文武両道の達成」を目指して
今年の大学入試結果は、前年度と比較すると、新卒生(90回生)は現役合格率と国公立合格者数においてほぼ同水準を保った上で、いわゆる難関十大学、国公立医学部医学科とも合格者数が増加しました。一方、既卒生は難関大学の合格者数では前年を下回りましたが、国公立医学部医学科の合格者数においては前年を上回る結果となりました。

詳しくは次頁の「平成27年度入試総括」をご覧ください。また、運動部、文化部とも各種大会で健闘しております。その活躍振りについては「がんばる現役生!文武両道」の欄をご参照下さい。今後とも「高いレベルでの文武両道の達成」を目指してまいります。

二、学校行事について

(一) 9月22日(国民の休日)に開催された今年の第68回運動会は、雨に祟られ予行が出来ないままぶっつけ本番の運営となりましたが、当日は澄み渡った秋空となり、高三生が創意を凝らし造り上げた櫓の下に大勢の来場者を迎え盛大に行われました。長い歴史の中で練り上げられスピーディーに展開される各種競技・演目の数々

とそれに直向きに取り組む生徒達の姿は見る人の感動を呼びました。そして何よりも、協力一致でやり遂げた全土佐中高生の心に、忘れがたい思い出として刻み込まれたものと思います。

(二) 10月は来年度の中高入試に向けた学校説明会のシーズンでしたが、例年、中学と高校の学校説明会を本校で、中高合同の学校説明会を土佐・須崎地区と幡多地区で開催しております。中でも、中学学校説明会には多くの小学生と保護者に参加されます。また、これ以外にも学校や塾などにも個別に訪問活動を随時行っておりますが、少子化が進行する中、向上心のある優秀な生徒の確保を目指して多面的な活動を継続してまいります。

(三) その他の大きな学校行事としては、11月は高一生の修学旅行(東京・京都)、三学期に入り1月は高校卒業式(91回生)、2月は中学の合唱コンクールと中二生のスキー研修(新潟越後湯沢)などが予定されております。尚、年明け早々の1月16・17日にはセンター試験が行われ、いよいよ大学受験が最終段階を迎えますが、新卒生、捲土重来を期す過卒生ともども志望が叶うことを心から念ずるところであります。

三、新たな寄付制度について

第2次百年委員会の答申を受けて検討を進めてきた新たな寄付金制度「土佐中高・新世紀募金会」の概要

～1,400名を超える参加者で埋まる会場～



土佐中学・学校説明会 <10/25開催 於体育館>

新教頭として

岡松 宏明 (51回生)



三浦先生を引き継ぐ形で教頭の仕事を務めることになりました、よろしく申し上げます。生徒一人一人にとり、学び成長できる最良の場として本校があり続けるため様々な課題に着実に対応していくにはと重責を改めて感じる毎日です。今年、8月のホームカミングデーはもちろん6月の東京や10月の北海道での支部総会にも参加させて頂きました。

霞が関ビルで300名を超える卒業生が集う壮観な関東支部、故郷を遠く離れた生活だけに一段と母校を懐かしみ、和気あいあいと話に花が咲く北海道支部の様子は素敵でした。また、10月の高知県私学振興大会では参加私立校では最多の保護者の方々の参加をいただき私学教育の重要性を広く訴える機会が持てました。こういった同窓会や振興会の強力なバックアップが本校の大きな強みであることをつくづく感じる半年間でもありました。創立100周年に向け本校としてのあるべき理想の姿を模索しながら努めていきたいと思っています。

が先日開催の理事会にて決議されましたが、同窓生はじめ多くの方々にご参加いただける制度設計となっております。細目が決まった段階で改めてお知らせすることとなりますので、その節はご協力の程よろしくお願い申し上げます。尚、当該委員会から理事長あて提出された答申と対応方針の全文については学校のホームページの「学校案内」欄に掲載してありますのでご覧ください。向寒のみぎり、同窓生の皆様の益々のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ近況報告とさせていただきます。

(平成27年10月末 記)

● 合格の状況 ●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大	2	1	3	3
弘前大	1		1	1
東北大		1	1	1
筑波大	2	1	3	3
埼玉大	1		1	1
千葉大	2	1	3	3
東京大	4	3	7	7
東京医科歯科大	1		1	1
東京外国語大	1		1	1
東京学芸大	1	2	3	3
東京藝術大	1		1	1
東京海洋大	1		1	1
東京農工大	2		2	2
電気通信大		2	2	2
一橋大	1		1	1
横浜国立大	3	1	4	4
山梨大		1	1	1
静岡大	1		1	1
名古屋工業大	1		1	1
京大	3		3	3
京都工芸繊維大	1		1	1
京都教育大	1		1	1
大阪大	6	2	8	8
神戸大	13	3	16	16
奈良女子大	1		1	1
島根大		1	1	1
岡山大	7	2	9	8
広島大	3	3	6	6
徳島大	8	7	15	14
香川大	1	6	7	6
愛媛大	1	2	3	3
高知大	27	11	38	30
九州大	1	2	3	2
鹿児島大		2	2	2
鹿児島大	1		1	1
計	99	54	153	140
昨 年	101	71	172	153

私立大学	現	過	計	進学
酪農学園大	1		1	1
つくば国際大	1		1	1
自治医科大学	1		1	1
獨協医科大学		1	1	1
埼玉医科大学	1	1	2	2
獨協大		1	1	1
淑徳大	1		1	1
帝京平成大	1		1	1
東京歯科大	1		1	1
青山学院大	8	4	12	3
亜細亜大	1		1	1
桜美林大	1		1	1
学習院大	2	2	4	1
北里大	3	4	7	3
杏林大	1		1	1
国立音楽大	1		1	1
慶應義塾大	3	7	10	5
工学院大	1		1	1
國學院大		1	1	1
国際基督教大	2		2	1
駒澤大		5	5	1
芝浦工業大	6	1	7	1
順天堂大		1	1	1
上智大	2	6	8	3
昭和大	3	3	6	6
昭和女子大	1		1	1
明海大		2	2	2
成城大	1	4	5	1
専修大	2	2	4	1
多摩美術大	1		1	1
中央大	19	1	20	4
津田塾大	2		2	2
帝京大	1		1	1
東海大	1	5	6	1
東京家政大	2		2	2
東京女子大	1		1	1
東京理科大	5	6	11	2
東洋大	1	6	7	7
日本大	6	7	13	1
日本歯科大	1	4	5	2
法政大	5	6	11	3
星薬科大	2		2	1
東京都市大	2		2	2
武蔵野大	2		2	2
明治大	18	8	26	6
明治学院大	2		2	2
明治薬科大	1		1	1
立教大	4	6	10	2
立正大	2		2	2
早稲田大	13	7	20	12
麻布大		1	1	1
神奈川大	1		1	1

私立大学	現	過	計	進学
金沢医科大	1		1	1
金沢工業大	2		2	2
岐阜女子大	1		1	1
南山大		1	1	1
成安造形大	2		2	2
京都外国語大	1		1	1
京都産業大	5	3	8	1
京都女子大	1	2	3	2
京都薬科大	3	1	4	3
同志社大	18	9	27	6
立命館大	47	37	84	11
龍谷大	3	11	14	1
京都造形芸術大	2		2	2
大阪医科大	1	1	2	1
大阪経済大	3		3	3
大阪経法大	1		1	1
大阪芸術大	3		3	3
大阪薬科大	2	2	4	1
関西大	17	12	29	3
関西医科大		2	2	2
関西外国語大	2	1	3	2
近畿大	8	11	19	2
摂南大	6		6	6
関西学院大	21	5	26	3
甲南大	1		1	1
神戸学院大	3	3	6	6
神戸学院大	1	1	2	1
神戸薬科大	1	1	2	2
兵庫医科大		2	2	2
武庫川女子大	1	1	2	2
兵庫医療大	1		1	1
岡山理科大	3	1	4	1
川崎医科大		2	2	1
就実大	1		1	1
徳島文理大	4	1	5	1
松山大	2	4	6	2
福岡大	1		1	1
福岡工業大		1	1	1
九州栄養福祉大	1		1	1
計	307	217	524	121
昨 年	292	252	544	130

準大・その他	現	過	計	進学
短大	4		4	2
専門学校	2		2	2
防衛大	2	1	3	1
防衛医科大		3	3	3

平成27年度入試総括

新・進路部長 藤岡 優太 (58 回生)



◆はじめに◆
前任の岡松先生の教頭就任に伴い、新たに進路部長となり、また58回生の藤岡です。母校に戻ってきて今年で24年目となります。この間、72、74、77、83、87として昨年度の90回生と卒業をともにしてきました。90回生では、74回生以来となる2度目の「高3からの担任」という形となりましたが、驚いたのは20番台から女子の出席番号が始まっていたこと。女子の番号は30番台から始まるという今までの常識からすると驚天動地のことでした。

因みに58回生3人の名簿を見てみると男子42名・女子14名。昔は男ばかりでした。ホームゲームで女子と踊ることができた嬉しさを感じています。ホームゲームで女子と踊ることができた嬉しさを感じています。

◆平成27年度入試結果◆

さて、平成27年度の入試結果ですが、前年度に続き、現役生90回生の120近い国立大合格者数が大きな特徴としてあげられます。このうち進学者は106名で、この20年ほどでは最多でした。昨年の89回生は新課程入試を敬遠したことが、今春の90回生は、女子の割合が高かったことが現役志向の高さに現れたように思います。

難関国立大については、(東大後期2名現役1十既卒1)合格や(神戸大16名(13十3)合格)などの結果を受け、全体として堅調な成績を修めることができました。ただ、東大・京大については期待も大きかっただけに、「もう少し合格者が出てよかったのに」というのが正直なところです。

国立大医学部については、合格者数が31名(11十20)と3年ぶりに30名を超えました。特に既卒の89回生が頑張りを見せてくれ、千葉大・岡山・広島・防衛医大(3名)と難関を見事に突破。新課程入試という大きな不安との戦いの中で勝ち取った合格は、喜びもひとしおだったのではないのでしょうか。

私立大学については、全体的にはここ数年、特に大きな変化がみられるわけではないですが、早慶、特に慶應の難しさが際立っています。

◆今後の入試動向など◆

「現行学習指導要領下では『教科型』で出題し…」のように、当初に比べややトーンダウンしてきているとはいえず、高大接続改革が次期学習指導要領を見据えて確実に進行しています。東大の推薦入試・京大の特色入試を契機に国立大の多様な入試は加速していくでしょうし、英語の外部試験活用など改革は現在の高校生にとっても無関係ではありません。改革の動向には注意する必要があります。ただ、敏感になりすぎて情報に振り回されてはなりません。進路部なら昭和41年度の進学の書き出しで始まっています。

「Hearing, Speaking, Reading, Writing」の4つの能力の並行的向上をはかり、英語を生きた言語として把握し、世界における自分の位置を知るための視野を拓けて、人間形成の最終目標を達成することを学習の根本とすることをまず心に銘じること。」

「現代国語の学習も、他の教科と同じく、結局は人間形成のために行う。決して点数をとるためではなく、また、大学入試の準備のためでもない。」

未来を見つめることは、過去を振り返ることもあろうと思います。新たな情報に耳を傾けつつ、先輩方の思いをしつかり引き継ぎ、改革を注視していききたいと思います。

17度目の
挑戦で
実現

「まんが甲子園」本選初出場!

受賞

高知県高等学校文化連盟会長賞



漫画同好会顧問

西尾 小和
(66回生)



期待を受けて真剣に取り組む

漫画同好会は、昭和54年頃に美術部から独立したそうです。以来、部員数に変動はありつつ漫画やアニメ

「17度目の挑戦で初出場」。注目される方は、部員と顧問の想像をはるかに超えたものでした。出場決定と同時にテレビ取材・選手宣誓が次々と決まり、本選が開始されると本校ブース前に取材陣が途切れることはありませんでした。日頃、部室などで黙々と描くことの多い部員にとって、大勢の取材陣に囲まれること、容赦ない質問やカメラの音に戸惑うことの多い2日間でした。

が好きな者同士が集まり、好きな漫画を描いて、おしゃべりをして、部誌「ステラ」を年に1回刊行してきました。専門の指導者に指導を受けることもなく、描きたいものをのびのびと描いてきました。しかし、「描きたいもののをのびのびと描く」ことは、大人が思うほど簡単ではありません。「井の中の蛙」を脱却し、まんが甲子園の予選を通過するこ



「ありのままで」で本選出場を果たす



「女子力男子」で敗者復活

本の課題「第一次競技「ウェアラブル(身につけられる)」」敗者復活戦「女子力男子」、決勝戦「スター」に對し、部員達は言葉遊びをすることなく、課題をどう解釈するか、それをどういう画風で表現するかを話し合い、真に向勝負をしました。作品は、5人で1枚の絵を描いているのではなく、背景・人物・小道具など、5人がそれぞれ手分けをして描き、最後に貼り合わせる「切り貼り」手法を用いています。色やパーツのズレが生じやすい手法ですが、



決勝戦「スター」で入賞

「全員で描く」ことにこだわった手法です。「ズレのないいいねい仕上げ」のできた作品になったのは、部活や学校生活の中で培ってきたコミュニケーション力と仲間を信頼する力を発揮した成果だと思っています。

「自分達は高校3年の夏になっても好きな漫画を描ける幸せ者です」とイン

タビューに答えた生徒達。「マスコミに注目されたのも、これまで漫同の歴史を積み重ねてくれた先輩たち、応援してくれた友達や家族のおかげ」と心から感謝をしている姿とやりきった満足感に満ちた表情に、彼らの成長を見ました。そして、この成長過程を見てもらったことに顧問として、また教師としての幸せを感じました。今回の出場に際し、応援して下さった多くの皆様に心より感謝いたします。



喜びに沸く部員たち

全国大会に出場した運動部***全国高校総合体育大会**

【団体】登山部、ハンドボール部（女子）

【個人】剣道部：今西悠太

自転車競技部：森口和史

水泳部：栲原一輝

***全国高校総合体育大会**

剣道部：今西悠太

高校県体

【団体】優勝 ハンドボール（女子、2年ぶり4回目）

登山（7年連続19回目）

水泳（5年連続8回目）

2位 ハンドボール（男子）、剣道（男子）、

テニス（男子）、自転車競技

3位 バドミントン（男子）

【個人】優勝 陸上：男子1600mリレー（宮地・中村・日浦・武政）

自転車：400m速度競走（下保）

水泳：男子200m個人メドレー（栲原）

400m個人メドレー（栲原）

400mフリーリレー（徳弘・高橋・栲原・諏訪）

400mメドレーリレー（高橋・栲原・道端・諏訪）

800mフリーリレー（高橋・徳弘・栲原・東富）

中学高知地区体

【団体】優勝 水泳（男子）、ハンドボール（女子）、ソフトテニス（男子）、テニス（女子）

2位 水泳（女子）、サッカー、バドミントン（女子）、テニス（男子）、ソフトボール

3位 陸上競技（男子）

【個人】優勝 陸上：男子1年走り幅跳び（坂本）

水泳：男子200m背泳ぎ（山西）

女子1年50m平泳ぎ（山本）

200m平泳ぎ（山本）

200m個人メドレー（谷協）

400m個人メドレー（谷協）

中学県体

【団体】優勝 水泳（男子、8年連続14回目）

ハンドボール（女子、2年連続2回目）

テニス（女子、3年連続3回目）

3位 ハンドボール（男子）、バドミントン（女子）

【個人】優勝 水泳：男子200mバタフライ（北川）

400mメドレーリレー（山西・尾原・北川・本越）

女子200m個人メドレー（谷協）

400m個人メドレー（谷協）

テニス：ダブルス（中山・杉原）

がんばる現役生！

文武
両道**全国大会に出場した文化部**

【棋道部】第51回全国高校将棋選手権

第39回全国高校総合文化祭 将棋部門

第36回全国中学校選抜将棋選手権大会

【放送部】第62回NHK杯全国放送コンテスト

朗読部門、アナウンス部門、創作ラジオドラマ部門、

テレビドキュメント部門

第32回NHK杯中学放送コンテスト

「朗読部門」「アナウンス部門」

第39回全国高校総合文化祭放送部門

アナウンス部門、朗読部門、ビデオメッセージ 部門

【映画部】第62回NHK杯全国放送コンテスト

創作テレビドラマ部門

【写真部】第39回全国高校総合文化祭 写真部門

第13回民家の甲子園全国高校対抗民家町並みフォトコンテスト

【漫画同好会】第24回マンガ甲子園

【かるた同好会】第39回全国高校総合文化祭

**秋季四国高校野球**

準決勝で明徳に延長10回で惜敗

本部活動報告

会長 岡内 紀雄 (34回生)

◎同窓会総会開催

45回生の寺村善博さんを委員長とするホームカミングデー実行委員会「の会」の企画・運営による、二〇一五年度同窓会総会を八月一五日に母校で開催しました。

実行委員会のアイデアによる盛り沢山のイベントに参加した同窓生ならびにご家族のみなさんは、それぞれに楽しいひとときを過ごすとともに、先

土佐中・高等学校同窓会役員

- 副幹事長 正木 宏明 (52回生) (新)
- 副幹事長 田所 智子 (49回生) (再)
- 副幹事長 宮地 貴嗣 (61回生) (再)
- 副幹事長 矢野 公士 (62回生) (再)
- 副幹事長 千頭 裕 (58回生) (再)
- 副幹事長 田中 章夫 (40回生) (再)
- 副幹事長 今村 洋昭 (46回生) (新)

輩・後輩の交流を通じて堅い絆を確かめ合うことができました。新阪急ホテルに席を移した懇親会は、過去最多の二一九名の参加を得て大いに盛り上がりしました。

また、総会では「同窓会運営協力金」の新設が承認されました。

◎会員名簿の発行(十二月発送)

五年毎に発行している同窓会会員名簿の二〇一五年版が、同窓生のみなさんのご協力を得て、ようやく発刊の運びとなりました。この五年間に一、五〇〇名の新しい会員が加わり、同窓会は二万名を超えるまでに発展してきました。

前回までは、同窓会の常任役員を中心に構成する「名簿作成委員会」のメンバーが、印刷・製本以外の作業を手弁当で、時間と体力を出し合って取り組んできましたが、最早限界に達したため今回は、全国の多くの学校で実績のある専門業者・小野高速印刷(株)に、ほぼ全ての業務を委託しました。初めてのことが故、成り行きを注視してきましたが、精度が高まるとともに、名簿

を希望の会員が増加するという上々の結果が生じ、予定どおり発行することが可能になりました。

広告に協賛くださった会員のみなさんに、心から厚くお礼申しあげます。

◎母校二〇周年まであと五年

五年後の二〇二〇年に母校土佐高は、記念すべき創立二〇〇周年を迎えます。この慶事を全会員で盛大に祝いたいと考えています。



森木将雄(32回生)会計監査

(右から3人目)

長い間ありがとうございました。

新任の役員



今村 洋昭 (46回生)



正木 宏明 (52回生)

2014年度物故者名簿(平成26.8.4~平成27.8.12) (敬称略)

平																											平		
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	26	
8	8	8	7	6	5	5	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	12	
12	5			8	26	12	9	2	22	18	12	10	7	26	17	16	14	8	4	1	28	11	9	26	13	8	6	3	
南	大	蟻	徳	横	中	竹	北	西	萩	西	中	南	岡	山	森	國	岩	武	田	寺	久	須	三	池	石	伊	吉	川	
平	洪	弘	本	島	田	内	代	山	原	野	岡	前	浦	崎	中	見	村	市	原	村	尾	保	賀	三	島	藤	川	島	
毅	博	明	將	邦	裕	全	之	助	香	徳	一	敦	正	和	心	昭	昌	元	好	弘	俊	三	雅	石	伊	吉	川	島	
一	三	郎	道	彦	頭	修	俊	江	頭	徹	彦	司	臣	彦	平	男	郎	巖	三	博	彦	介	一	雅	石	伊	吉	川	
37	28	46	29	46	30	59	29	50	28	29	68	34	22	28	31	70	27	29	67	27	34	40	31	45	49	29	33	49	
H	K	N	O	K	H	O	K	N	M	K	N	H	M	S	H	S	K	K	K	T	K	H	K	O	K	K	H	K	H
K	N	O	K	H	O	K	N	M	K	N	H	M	S	H	S	K	K	K	T	K	H	K	O	K	K	H	K	H	O

関東支部

顧問 浅井伴泰（30年生）

関東支部には40年以上前に、卒業シングル回数の先輩が中心になって立ち上げられた「筆山会」があります。今春会長のバトンを引き継ぎました。岡村（3回）北岡（5回）吉沢（16回）岡崎（23回）森（23回）（敬称略）の順で六代目になります。

「筆山会」は当初、昼食会、新年会、初代三根校長の墓参会、ゴルフ会（来春70回目）等でスタートしましたが、最近はいきんぐ、俳句（川柳）、麻雀、囲碁、写真などの趣味の会が加わり、女性や若手の参加者が増え賑やかになりました。

今年が三根校長の没後80年に当るので、長らく中断していた墓参会を再開しようという話になり、10月の昼食会で、私の同期の中城さんから三根校長の略伝、教育方針、エピソード等のレクチャーを受け、11月5日に有志11人（女性5人）で多磨霊園（東京ドーム27倍の広さ）を訪れ墓参をしました。

隣にあった長男で歌手のディック・ミネさんの墓碑には、代表曲「人生の並木道」の歌詞が刻まれていました。ミネさんは昭和60年に関東支部が組織化された第一回の総会に来られ、父上の思い出を熱く語られました。この時の写真は「筆山」創刊号に、又寄稿下さった「思い出の先生方」は「筆山」9号に載っております。関東支部のHP

からあくセス出来ますのでご覧下さい。

尚、昭和17年発行の「三根先生追悼誌」（A4版268頁）には薫陶を受けた1回生から16回生までの四十九名の先輩方の敬慕の念が溢れています。

三根校長 ディック・ミネさんの墓参の後、徒歩で10分位の所にある、筆山会初代会長の岡村先輩（3回）の墓に参り、その後迎えのバスで近くの深大寺に移動し、昔先輩方が飲んで語り合った、そば割烹「水神苑」で庭園を眺めながら歓談しました。紅葉は未だでしたが好天に恵まれ、快い一日でした。

歴代の校長は今も就任に当って三根校長の墓参をされているそうです。母校は五年後に創立100周年を迎えます。

百年前とは社会情勢や学校の規模、教育内容が大きく変わっていますが、三根校長を仰いだ創立時の高邁な精神を忘れずに、少子化、グローバル化した新しい時代にもなお有為な人材を輩出するよう、母校の更なる発展を願っています。



初代校長・三根圓次郎先生没後80年の墓参

東海支部

事務局長 瀬沼憲司（64年生）

同窓生の皆様、こんにちは。

東海支部では5月に総会を行いました。長年会計を務められ、またこの2年程幹事長代理も兼務していただいた山崎博司さん（44回）が退任され、新たに名古屋大学総合保健体育科学センター糖尿病運動機能代謝学寄附研究部門教授の楠正隆さん（49回）が、幹事長に選任されました。そして、関東支部で長年会計をされていた川上正衡さん（58回）が会計に選任されました。また久永洋子さん（34回）に顧問になっていたこととなりました。11月末には冬季懇親会を若返った新たな役員に行いたいと思います。ところで、リニア中央新幹線（仮称）の本格着工が始まった中、名古屋駅では大規模な再開発が行われており、すでにあるJRセントラルタワーズ（ツインタワー）トヨタ自動車の入るミッドランドスクエア、名古屋ルーセントタワー、螺旋型が特徴のモード学園スパイラルタワーズ等に加え、新たに3つの巨大プロジェクトが進んでいます。大名古屋ビルディング（2016年開業予定）JPTタワー名古屋（2016年開業予定）JRゲートタワー（2017年開業予定）と立て続けに高さ200m前後の超高層ビルが出現します。現在前の二つは既に外見はほぼ出来上がっており、名古屋駅周辺は既に大きく変わってきています。



この3つの新たな超高層ビルの商業施設・オフィスによる求人も既に始まっており、名古屋では人手不足が深刻な状態になります。

また、度重なる開発計画の延期で心配されていた国産初の小型ジェット旅客機「MRJ（三菱リージョナルジェット）」の、県営名古屋空港（小牧空港）での走行試験も既に行われており、この会報が発行される頃にはついに初飛行が行われていると信じております。

高知から名古屋への飛行機は県営名古屋空港（小牧空港）に到着します。是非MRJを見に、また変貌した名古屋駅を見に東海地方におこしください。



変化をとげる名古屋駅周辺

関西支部

顧問 永野元玄(29回生)

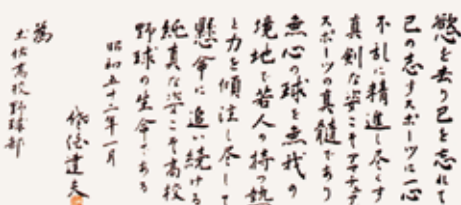
「高校野球100年」に思う

全国ベースの高校野球(当初は中等学校野球)夏の大会が開設されて100年、春選抜大会が90年を迎えた。この種の大規模な全国大会を永年開催しているという類例は世界でも稀有ではないかと思われる。大変な歴史と文化の蓄積である。この礎を築き上げられたのは、母校右文寮にもその「球魂」の書が掲額されている高校野球生みの親と言われる佐伯達夫高野連会長(第3代目。故人)である。終戦の翌日から高校野球再興のために連盟づくりに東奔西走され、現在の隆盛へと脈々とつながっていることは真に偉大な功績である。

さて、甲子園大会に於ける母校の実績を改めて緋いてみたい。

野球部発足、連盟加盟が昭和22年(1947年)だから68年間に及ぶ。この間、甲子園大会へ出場したのは、春7回、夏4回。それぞれに準優勝1度、昭和27年から平成25年までの試合総数は26を数える。15勝(春9・夏6)11敗(春7・夏4)となっている。

甲子園に於いて母校の残してきた特記点としては、我田引水ではあるが「純白のユニフォーム」と「全力疾走」であろう。全力疾走は今やあちこちで実践しているが、甲子園での元祖(実質の元祖は鳴門



佐伯達夫氏寄贈の書「球魂」

高校だが)と言ってもいいであろう。今日まで大きな影響力を持ち続けてきている。そして伝統のうえに真摯でひたむきな取り組みには、高野連連盟旗にその理念として表わされている

「E」マーク:

「フエアー・

プレイ」「ファイティング・スピリット」「フレンド・シップ」が相応しい部活動であることを誇らしく思う。

2013年、センバツ大会出場の折りに観られた母校への外部からの異様なまでの温かい声援、それも拡がりのある待望感が底流していることを垣間見たことは本当に嬉しいことであった。この上は「再び」甲子園原頭である「純白のユニフォーム」と「全力疾走」を出来るだけ早い機会に観たいものである。

折りしも秋季大会での大粘闘はワクワクハラハラ感を抱かせてくれる。長いあいだ夢を見させてくれるのはセンバツの特徴でもある。1月29日が待ち遠しい。

3年後には、センバツ大会は90回、夏は100回大会を迎える。

広島支部

幹事 藤川正宗(72回生)

日々を慌ただしく過ごしていると、季節の移り変わりも見逃しがちになってしましますが、私がかこ数ヶ月は真面目に稽古へ通っている茶の湯というものをすすめます。私の習う上田宗箇流は、安土桃山時代から続く武家茶道で、明日ともしれぬ激動の乱世を生き抜く心の鍛練は、現代の私たちにも通じるものを教えてくれます。

「日本には、日常を美しくする、茶道という宗教がある」と昔のえらい人が外国に紹介していますが、まさしくその通りで、毎日の生活を生き切るための全てが所作や心構えの中に凝縮されています。

もちろん、点前作法をしつかりと覚えて身体が勝手に動くまで練習し、年に数回は茶事をすることで点前だけでなく、懐石やしつらえの準備、客作法、かたづけなどにいたるまで全てを網羅できるようにならなくてはなりませんし、関連する様々な文化にもふれなければ、その本質にたどり着くことはできません。茶禅一味といわれ、茶の湯と禅は一体のもので、坐禅を長く続けています。日本刀は武士の命とまで言われましたので、居合道も始め、段まで取ってしまいました。

学ぶことは一生かけても尽きそうにありませんが、そのことを日々

の稽古で教えてくれる茶の湯は、私にとって欠かすことのできない習慣となりつつあります。

さてここからが本題ですが、例年、広島支部総会では、各界で活躍される同窓生を講師としてお呼びして、講演会を行っています。ご存知のように土佐の卒業生は個性豊かな方々ばかりですので、こんなにも面白い話ができる人を毎年呼んでくれるな、とその層の厚さに関心ひとしきりです。

今年も11月7日、広島アンデルセンにて、絵本作家として活躍されている40回生の西村繁男先輩に(「絵で読む広島原爆」のあんな話こんな話)と題してご講演いただきました。運命的な人との出会いが織り成しこの絵本が完成したというのが一番の印象でした。実際に広島に住まい、語り部の方から聞いて細部に渡り描き込みながらも、ただ描く役目を与えられただけと自身を評する姿に胸が熱くなりました。那須正幹氏と共に客観性に努めたことや、作品を世に出した責任という観点など、時間いっぱいお話しいただきました。続く懇親会でも先輩方のお話を聞くにつれ、あらためて土佐校同窓会の素晴らしさを実感する、有意義でたのしい支部総会でありました。



「絵で読む広島原爆」を講演する西村繁男氏(40回生)

香川支部

幹事 森本和彦（57年生）

同窓会の皆様、こんにちは。香川支部の森本です。

香川では来年瀬戸内国際芸術祭2016が開催されます。今年4月には県域全体が「香川せとうちアート観光圏」として認定され、9月には、瀬戸内国際芸術祭実行委員会が第1回ジャパンツーリズム・アワード大賞を受賞するなど、開催に向け気運が高まっています。

今年の第20回香川支部総会は、7月4日に例年通り高松シンボルトワで開催されました。ご来賓として、山本学校長をはじめ同窓会本部から田所副幹事長、矢野副幹事長、さらに各支部からは、深田常任理事（関東）、前田支部長（東海）、岡田幹事（関西）、門田幹事（広島）、また、ご指導いただきました竹村先生をお迎えし、あいにくの天気でしたが小雨にけぶる瀬戸内の夜景を眺めつつ、年に一度の楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

総会では、支部役員の変更ならびに会計報告が行われ、今年は支部役員の交代等もなく、現役員すべての留任が承認されました。その後、山本校長から、向陽会クラブの成績のご報告があり、その中から漫画同好会の「まんが甲子園」予選状況について紹介いただきました。「ありのまま」をテーマに「鶴の恩返し」をモチーフにして土佐高らしくひねりを効かせた（効

かせずぎ？）作品で、皆で感心したところですが（残念ながら、本選では優勝ならず、高知県高等学校文化連盟会長賞を受賞）。

総会後の懇親会では、土佐の冷酒を片手に、老舗料亭の各種料理をつまみにし、学生時代の昔話や近況報告で盛り上がり、あつという間に肩を組んでの校歌斉唱に突入するという、いつもながらの盛大な宴席となりました。



若手会員懇親会風景



右から3人目・筆者

おかげさまで、香川支部では総会参加人数も毎年40名前後と堅調に推移しています。来年の総会・懇親会は、7月2日（土）に開催する予定です。残念ながら事に芸術祭の会期の丁度合間になつてしましますが、県内には現代アートやモダン建築、伝統芸術の文化スポットが数多く存在しています。是非、機会があれば、讃岐の国香川県へお越しください。

北海道支部

事務局長 山本隆昭（53年生）

事務局の山本です。10月14日には市内から望まれる手稲山（1023m）が夜の降雪で初冠雪となり、いよいよ札幌は冬の始まりです。手稲山が初冠雪になると、北海道大学旧恵迪寮では初雪ストームと称して各部屋（約60部屋）でストームをしながら夜通し回る習慣がありました。夜遅くから始まり、各部屋で数分間やりながら回るの

で終わる頃には夜が明けていました。新寮となった現在やっているかは不明です。ところで道内の各地を回っていると、高知関連の事柄を発見することがあります。先日オホーツク地方、滝上町の道の駅に越知町の芋けんぴがありました。高知県出身者が開墾を始め、その後越知町などからの入植者が続いたことから滝上高知県人会もあるようです。また、積丹町の温泉では「ごっくん馬路村」が飲めます。積丹町と旧土佐山田町が姉妹都市の関係で、紹介してもらったそうです。道東の厚岸町には、高知小中学校、高知橋があり、勿論「こうち」と読めます。関連性がありそうですが今のところは不明です。高知と意外と関連のある北海道でした。

それでは、北海道支部のこの一年間の活動報告をします。今年度

の支部総会は、来賓として、学校より岡松教頭先生、同窓会本部より岡田先生、窪田元北海道支部長、関東支部より前田憲一副幹事長、東海支部より前田徹修支部長、関西支部より原田幹事長にご出席いただき、10月3日に開催しました。北海道支部からの10名と合わせ16名での総会・懇親会となりました。北海道支部は、今年の6月に設立してから10年となりましたが、今年は、設立の中心となって活躍された窪田元北海道支部長が出席されており、設立に関するいろいろなお話を聞くことが出来ました。最後になりますが、今後も北海道支部を宜しくお願い致します。次の10年に向けて活動していきます！と思っています。機会がありましたら北海道支部総会にもご出席ください。心よりお待ちしております。



アットホームな雰囲気の中で…

祝 結成10周年 よさこいチーム「陽」

土佐高卒の大学1年生と2年生が、毎年代替わりをしながら運営しているよさこいチーム「陽」が結成10年を迎えました。おめでとうございます!(編集部)

はじめに、今年も同窓会の皆様並びに多くの方々のご協力によりよさこい祭りに参加出来たことを心より感謝いたします。今年は陽創立10周年ということでこのように長く続けるには運営も柔軟に変化していかなければなりません。私達もまた今年感じた事を後輩達へと伝えていけたらと考えております。至らない点も多々あるかと思いますが、どうかそんな私達をこれからも温かい目で見守って頂けたらと思います。

10期生代表・依光 慶記(89回生)

89回生、90回生の仲間達と1年間スタッフをやり遂げた経験は、一生ものの財産です。運営に際して、同窓会の皆様からのご支援・ご協力は私達の大きな力となりました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。

10期生副代表・山下 彩香(89回生)



依光 慶記さん



山下 彩香さん



編集後記

おかげさまで今年も無事に「向陽」を発行することが出来ました。快く執筆して下さい同窓生の皆さまへの感謝の気持ちで、心がほっこりしています。今年は5年に1度の名簿発行の年。本部役員一同、一丸となって取組んで参りました。1年かけた作業もやっと終わり、創立100周年に向けてまた階段を昇ります。

北村 恵美子(47回生)

教職員向陽会

北川 力(70回生)



8月23日(日)に、土佐高校卒の教育関係者の同窓会「教職員向陽会」を高知市内で開催しました。

今回で3回目、回を重ねるごとに少しずつ参加して

下さる先生方も増え、今回は27名の参加でした。さすが、お話されるのがお仕事の方々ばかり、自己紹介もそこそこに、開始すぐに隣の方の声が聞こえなくなるほどの盛り上がりでした!



距離的なこともありますので、基本、高知県内在住の先生方中心になりますが、夏休み、春休みの時期に合わせて開催しておりますので、ご都合がよろしければ、ぜひ県外在住の先生方のご参加お待ちしております♪

ご参加くださった先生方、ご案内をさせていただいた先生方、同窓生の皆様のお蔭で、今回も無事に開催することが出来ました! ありがとうございます。

「同窓会運営協力金」のお願い

- 協力金 会員1人 1年間 2,000円
- 対象 高知県に在住の会員と
6支部に属さない県に在住の会員
- 集金方法 郵便振替
銀行振込(四国銀行・高知銀行)
- 毎年11月発行の「向陽」に郵便局の
振込用紙を同封

詳細は該当会員に別紙にて説明、振込用紙を同封しています。

何卒、同窓会運営にご理解・ご協力をお願い致します。

土佐中・高等学校同窓会会長 岡内 紀雄(34回生)

母校／同窓会本部／各支部

土佐中学・高等学校 事務 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosa.ed.jp/index.html>
土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosaobog.com/>
同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp
同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田・松本法律事務所 弁護士市川直介 気付
(TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com (HP) <http://www.tosako-kanto.org/>
(E-mail) kininomiya@ykh.chiyoda.co.jp / ninomiya@iris.ocn.ne.jp
同窓会東海支部 事務局長 瀬沼恵司 〒455-0064 名古屋市中区本宮町6-7-5 フォレスト本宮201
(TEL) 052-837-5834 (FAX) ナシ (E-mail) knzss@kza.biglobe.ne.jp (HP) <http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/>
同窓会関西支部 事務局長 藤原由規 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル 4F 税理士法人WESTBRAIN 気付
(TEL) 080-9166-2400 (FAX) 06-6110-5419 (E-mail) yoshichika-fujiwara@westbrain.jp
同窓会広島支部 事務局長 大谷準一 〒734-0007 広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
(TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (E-mail) spat5629@vesta.ocn.ne.jp (HP) <http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/>
同窓会香川支部 事務局長 野村喜久(担当=福原俊介) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL) 090-7780-3722 (FAX) ナシ (E-mail) fukuhara14443@yonden.co.jp